

令和7年度 上河内西小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- | | | |
|---|---|---|
| <input type="radio"/> 自立（ひとりで）
・ 進んで学べる子
・ 自ら考え解決できる子
・ 自信をもって行動できる子 | <input type="radio"/> 共生（なかよく）
・ 人とつながりともに生きる喜びを感じる子
・ 思いやりがある子
・ みんなのために働く子 | <input type="radio"/> 逞しさ（たくましく）
・ 進んで運動し、活力のある子
・ 最後まで粘り強く取り組む子
・ 健康な心と体をつくる子 |
|---|---|---|

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「学びがあり、仲間がいて楽しい学校、子どもを学ばせてよかったと思える学校づくり」のテーマのもと、全職員が、相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。

目指す学校像

- | | | |
|--|---------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="radio"/> 学びのある学校 | <input type="radio"/> 仲間のいる学校 | <input type="radio"/> 楽しい学校 |
| <input type="radio"/> 子どもたちを学ばせてよかったと思える学校 | <input type="radio"/> 地域とともに子どもを育てる学校 | |

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童一人一人が持続可能な社会の担い手となるよう英気あふれる学校をつくる。
- (2) 学びに向かう環境を整え、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- (3) 自らの目標に見通しをもち、粘り強く挑戦する資質・能力を育む教育活動の充実を図る。
- (4) 児童一人一人の実態や状況に応じた指導・支援を組織的に行う。
- (5) 家庭や地域の信頼に応える「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- (6) 教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切にして、教育的な専門性の向上に努める。
- (7) 職務の遂行に際しては、業務の効率化を推進するとともに、教育の質の向上を目的とする働き方を心掛ける。
- (8) 上河内地域学校園の連携による義務教育9年間を一体とした指導を推進する。

[上河内地域学校園教育ビジョン]

かしこく、たくましいゆずっ子の育成

～ 基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう ～

4 教育課程編成の方針

- (1) 小学校学習指導要領や第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画の趣旨を踏まえた教育課程の編成・改善に努め、教育目標の具現化を図る。
- (2) 学習の基盤となる資質・能力を育成し、児童の学びの融合・統合が図れるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点で編成を行う。
- (3) 児童に生きる力を育むことを目指し、学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できるよう編成する。
- (4) より確かな児童理解に基づいて、「楽しく分かる授業」「個に応じた指導」を展開し、基礎・基本の着実な定着を図るよう編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - 確かな学力の定着、向上に向けた、学びに向かう環境づくりを通じた望ましい学習態度の育成
 - ・見通しをもち、粘り強く課題解決に取り組む資質能力の育成
 - ・教職員の授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進
 - 地域学校園小中学校、保護者、地域関係者と協力し、地域の教育資源を活用した学習活動の推進
 - ・同僚性や協働性をもった教職員集団による、業務の効率を意識した働き方改革の推進
- (2) 学習指導
 - ・主体的・対話的で深い学びに向けて、児童の自己調整力を高めるための授業改善
 - 課題を追究・解決していくための話し合い活動を取り入れた単元・授業展開の工夫
 - 基礎学力の定着・向上を目指した授業づくり等の工夫
- (3) 児童生徒指導
 - 児童一人一人のよさを認め、励ます教育の充実により、自信や自己有用感を育む指導の充実
 - 基本的な生活習慣を身に付け、思いやりをもちルールを守って行動する児童の育成
 - ・確かな児童理解に基づいた多様な児童の状況に応じた指導の充実
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
 - ・一人一人が体力向上、健康や安全に関することに興味をもち、進んで行動する児童の育成
 - 自己の健康課題を把握し、健康的な生活習慣を身に付けるための指導の充実
 - 望ましい食習慣とマナーの育成
 - ・効果的な避難訓練の実施や安全教育による判断力や実践力の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価：↑・↓は前年度との比較 5ポイント以上							
目指す児童の姿	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合80%以上	①主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学習課題の提示の仕方、振り返りの仕方を工夫した授業の展開に努める。 ②各教科等において、情報の集め方や発表の仕方を習得できるように指導するとともに、考えを伝え合う学習の場を設定するよう努める。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>87.5</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0↑</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>91.9↑</td></tr> </table> 数値指標は児童・教職員・保護者ともに達成することができた。 【次年度の方針】 発達段階に応じたノート指導の充実や、思考ツール・ICT機器を効果的に活用した発表場面の設定に継続して取り組む。他者と対話し、自分の考えを根拠とともに伝える活動を通して、主体的に学び合える授業づくりを推進する。	児童	87.5	教職員	100.0↑	保護者	91.9↑	
	児童	87.5									
	教職員	100.0↑									
	保護者	91.9↑									
A2 児童は、思いやりの心を持っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合85%以上	①道徳科の授業を生かし、自分と異なる意見についてもじっくり考えさせ、他者を認める雰囲気づくりを醸成する。「ふわふわ言葉」の推奨を継続する。 ②縦割り班活動や異学年交流活動を充実させ、相手の気持ちを思いやったやさしい言葉遣いができるように指導し、学校HP等で保護者に知らせることを継続する。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>97.5↑</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0↑</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>95.0↑</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0↑</td></tr> </table> 数値指標は児童・教職員ともに達成することができた。 【次年度の方針】 縦割り班活動や異学年交流活動を通し、認められる機会を多く設定し、継続して他者の良さに目を向けたり、思いやり助け合ったりできる児童の育成に努める。	児童	97.5↑	教職員	100.0↑	保護者	95.0↑	地域住民	100.0↑
児童	97.5↑										
教職員	100.0↑										
保護者	95.0↑										
地域住民	100.0↑										
A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合80%以上	①学習や行事等で事前に目標を設定する場を設け、実践後に振り返りを行わせ、努力の過程を認め、具体的なよさを称賛していく。 ②目標に向かって取り組む姿勢を児童相互が認め合い、励まし合えるよう指導し、学校だより等で発信する。 ③学習の見通しをもたせ、継続的に取り組ませることで、成果を実感できるようにする。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>93.8</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>81.6↑</td></tr> </table> 数値指標は児童・教職員・保護者ともに達成することができた。 【次年度の方針】 学習や行事において、目標設定・振り返り・評価を一体的に行う指導を継続し、努力の過程や工夫を可視化して認めることで、児童が粘り強く課題に取り組み、達成感や成長を実感できる学習活動を充実させていく。	児童	93.8	教職員	100.0	保護者	81.6↑		
児童	93.8										
教職員	100.0										
保護者	81.6↑										
A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合80%以上	①日常の指導や学級活動、保健の学習を通して、感染症予防の意識を高めるとともに、望ましい生活習慣を身に付けることができるようにする。 ②児童の健康・安全に関する意識を高めるために、各種健康チェック等を通して家庭と連携を図る。 ③児童が健康・食育・安全を意識しながら生活できるよう、場面に応じた具体的な指導を継続して実施する。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>92.5</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>76.2↓</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </table> 保護者の数値は減少したが、数値指標は児童・教職員ともに達成することができた。 【次年度の方針】 望ましい生活習慣を身に付けることができるように、さらに学級活動や保健の学習	児童	92.5	教職員	100.0	保護者	76.2↓	地域住民	100.0
児童	92.5										
教職員	100.0										
保護者	76.2↓										
地域住民	100.0										

		<p>において場面に応じた指導の充実を図るとともに、各種健康チェック等を通して家庭と連携を図る。</p>						
<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしていこうとしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上</p>	<p>①授業や各種検定等において、目標の達成に向けて努力している児童を称賛し、自己の成長を感じられるように振り返りを行う。</p> <p>②学校行事等で学校に貢献している児童を称賛したり、紹介したりする機会を設ける。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 293 1501 360"> <tr> <td>児童</td> <td>93.8↑</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0↑</td> </tr> </table> <p>数値指標は児童・教職員ともに達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 各教科や行事の終末に適切な振り返りの時間を確保し、児童が自己の変容や成長を実感できるようにする。教師や友達から認められる経験を積み重ねることで、自己肯定感を高め、協力して生活を豊かにしようとする態度を育てる。</p>	児童	93.8↑	教職員	100.0↑		
児童	93.8↑							
教職員	100.0↑							
<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上</p>	<p>①児童が進んでコミュニケーションがとれるよう、ALTや外国の人と会話する基本形(例)を作成し、活用を促す。</p> <p>②教材教具を作成し、児童が進んでコミュニケーションを図る活動を充実させる。</p> <p>③英語の関心を高めるために、ALTだけではなく、教職員と児童が英語を使ったコミュニケーションを図る学習活動を取り入れていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 707 1501 775"> <tr> <td>児童</td> <td>73.8↓</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.4↑</td> </tr> </table> <p>数値指標は教職員は達成したが、児童の数値は減少した。</p> <p>【次年度の方針】 ALTとの活動を一層充実させるとともに、全教職員が日常の挨拶や声掛け等で積極的に英語を使用する。また、朝の読み聞かせや給食時の放送(英語の歌やALTとのやり取り等)を通じて、授業以外でも日常的に英語に触れる機会を確保することで、児童が英語を身近に感じ、進んでコミュニケーションを図ろうとする意欲や関心を高めるための環境づくりを拡充する。</p>	児童	73.8↓	教職員	94.4↑		
児童	73.8↓							
教職員	94.4↑							
<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上</p>	<p>①社会科、生活科、総合的な学習の時間(宇都宮学)、道徳(地域教材)などの時間を活用して身近な郷土資源を学習に取り入れ、宇都宮のよさに触れる機会を増やす。</p> <p>②ふれあい文化教室を活用して、宇都宮のよさに触れる機会を増やす。</p> <p>③給食時に宇都宮産の食材を紹介する番組の視聴を一齐に行い、理解につなげる。</p> <p>④活動内容を各種だよりやHP等で保護者に伝え、宇都宮のよさについて啓発していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 1223 1501 1323"> <tr> <td>児童</td> <td>92.5↑</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0↑</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>78.9↑</td> </tr> </table> <p>数値指標は、保護者は達成しなかったものの、児童・教職員は達成した。特に児童については昨年度から10ポイント以上上昇した。</p> <p>【次年度の方針】 総合的な学習の時間や社会科、生活科、道徳などの時間を活用し、宇都宮のよさに触れるような取組を学校全体で計画的に取り入れていく。</p> <p>市主催の「ふれあい文化教室」や給食時の地域の食材に関する番組視聴など、地域のよさを実感できる機会を増やしていく。</p> <p>活動内容を各種だよりや学校HPで伝え、保護者や地域に向けて啓発を行う。</p>	児童	92.5↑	教職員	100.0↑	保護者	78.9↑
児童	92.5↑							
教職員	100.0↑							
保護者	78.9↑							
<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 90%以上</p>	<p>①各教科や領域等の授業や行事等で活動内容や目的に応じてICT機器の適切な使い方を学び、効果的に活用できるよう指導する。</p> <p>②適正な学校図書館蔵書及び環境整備に努めるとともに、チャレンジ読書を推進したり、市図書館から貸し出しを受けたりして、学習に必要な図書が活用でき</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 1827 1501 1928"> <tr> <td>児童</td> <td>88.8</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.0</td> </tr> </table> <p>数値指標は教職員・保護者は達成したが、児童は達成することができなかった。</p> <p>【次年度の方針】 各教科の特性に応じて、一人一台端末や</p>	児童	88.8	教職員	100.0	保護者	90.0
児童	88.8							
教職員	100.0							
保護者	90.0							

	<p>るようにする。</p> <p>③家庭での利用の約束を徹底するとともに、情報モラル等も併せて指導し、家庭学習でも効果的に活用できるようにする。</p>	<p>図書資料を効果的に組み合わせた調べ学習を推進する。児童の活用頻度を高めるとともに、情報モラル教育を徹底することで、目的に応じてデジタルとアナログを適切に使い分ける能力を育成する。</p>								
<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上</p>	<p>①環境問題や防災等の、「持続可能な社会」に係る内容を各教科の授業とどう関連させるかを意識しながら指導することによって、関心を高める。</p> <p>②教職員がSDGsの意味を理解し、授業や各種教育活動等に関連付けられるよう研鑽する。</p> <p>③SDGsに関連した図書のスタンプラリーを行い、図書や教材を積極的に授業に取り入れる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 338 1501 405"> <tr> <td>児童</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>83.3↑</td> </tr> </table> <p>数値指標は児童・教職員ともに達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 SDGsに関連した図書資料の活用や、各教科等の内容と関連付けた指導を継続する。学校生活や身近な地域の課題を自分事として捉え、持続可能な社会の担い手としての意識を醸成する取組を推進する。</p>	児童	90.0	教職員	83.3↑				
児童	90.0									
教職員	83.3↑									
<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 90%以上</p>	<p>①児童指導主任や特別支援教育コーディネーターが情報を集約し、全教職員が児童に関する情報交換の場を設け、支援や配慮を要する児童に関する共通理解を図り、組織的に対応する。</p> <p>②特別な支援を要する児童の実態や状況に応じて、スクールカウンセラーや関係諸機関と連携を図るなど、チームとして機能を生かし、支援及び指導を充実させる。</p> <p>③朝の学習時間の活用や、習熟度別学習及びチームティーチングを行い、きめ細かな支援をしていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 725 1501 759"> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0</td> </tr> </table> <p>教職員の肯定割合は100%で数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今後も特別な支援を要する児童の共通理解を図り、必要に応じて組織的対応を行う。</p>	教職員	100.0						
教職員	100.0									
<p>A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①「いじめゼロ強調月間」に児童会主催の「えがおいっぱい集会」を行うとともに、いじめゼロポスターの掲示・道徳の時間の充実等により、いじめをしない・させない・許さない学校文化を構築する。</p> <p>②定期的な教育相談やいじめアンケート等により、全職員で共通理解のもと組織的な対応をし、未然防止・早期発見・早期対応に努める。</p> <p>③学級活動や道徳等でデジタル・シティズンシップ教育に力を入れ、インターネット上でのいじめ防止のための指導に努める。</p> <p>④学校の取組について、学校だよりや学年だより、HP等で保護者へ積極的な情報発信を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 1128 1501 1263"> <tr> <td>児童</td> <td>96.3</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.9↑</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100.0↑</td> </tr> </table> <p>すべての対象で数値指標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 今後もいじめアンケートの実施や教職員間での情報共有を密に行い、いじめを早期発見し、迅速に対応していく。また、デジタル・シティズンシップ教育を強化し、インターネット上でのいじめ防止のための指導にも引き続き努めていく。</p>	児童	96.3	教職員	100.0	保護者	91.9↑	地域住民	100.0↑
児童	96.3									
教職員	100.0									
保護者	91.9↑									
地域住民	100.0↑									
<p>A 12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①児童の自己有用感や自己肯定感を高められる場になるよう、日々の授業や諸活動で児童が活躍する場面を実現し、相互に認め励ますことができるよう学級経営を充実させる。</p> <p>②日々の観察をはじめ、教育相談週間によるアンケート調査や相談結果、Q-U調査等を活用して、不登校の未然防止に努めるとともに児童の変化に対してケース会議を開くなど、迅速かつ組織的に対応する。また、必要に応じてスクールカウンセラーや外部機関と連携を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 1704 1501 1805"> <tr> <td>児童</td> <td>98.8↑</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>100.0↑</td> </tr> </table> <p>数値指標は児童・教職員・保護者ともに達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、学習集団の育成の基本である学級経営を充実させ、学びに向かう集団づくりに取り組み、互いに認め合う安心感のある学級を目指すとともに、全児童を全職員で見守り体制の充実を図る。</p>	児童	98.8↑	教職員	100.0	保護者	100.0↑		
児童	98.8↑									
教職員	100.0									
保護者	100.0↑									

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいききとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①児童の自己肯定感や主体性を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにするため、各行事や児童会活動、集会活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定する。</p> <p>②児童一人一人の特性やよさを的確に把握し、積極的に教師が声をかけていく。</p> <p>③児童相互に認め合う場を意図的に設けていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>96.3</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>100.0 ↑</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>すべての対象で数値指標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き児童の自己肯定感や主体性を高められるような活動や児童相互に認め合う場を意図的に設けていく。</p>	児童	96.3	教職員	100.0	保護者	100.0 ↑	地域住民	100.0
	児童	96.3									
	教職員	100.0									
	保護者	100.0 ↑									
	地域住民	100.0									
<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①「宇都宮モデル」の指導過程を活用した授業改善を行うことで、分かる授業を実現する。</p> <p>②朝の学習の時間を使い、基礎的な学習内容の習熟を図る。また、複数の教員が指導に関わることで個に応じた指導を充実させ、学力向上につなげていく。</p> <p>③学力向上の取組として、家庭学習の充実を図り、学年だよりやHPで、保護者に伝えていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>97.5</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>97.4 ↑</td></tr> </table> <p>数値指標は児童・教職員・保護者ともに達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 「宇都宮モデル」に基づく授業改善を推進し、めあてと振り返りの整合性や個に応じたきめ細かな指導を徹底する。家庭学習との連携を一層強化し、児童一人一人の確かな学力の定着と向上に努める。</p>	児童	97.5	教職員	100.0	保護者	97.4 ↑			
児童	97.5										
教職員	100.0										
保護者	97.4 ↑										
<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①職員会議や職員研修を通して、学校の全教職員が同じ目標のもとに、情報を共有しながら、学校目標の実現に向けて、教育活動の充実を図る。</p> <p>②教職員と学校スタッフやボランティア等の関係者が協力して取り組めるよう管理職のマネジメント力の向上を図り、学校の組織力を強化する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>教職員の肯定割合は 100%で数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今後も全教職員が同じ目標のもとに情報共有しながら学校目標の実現に向けて教育活動の充実を図っていくとともに、全教職員と関係者が互いに連携を図りながら協力して取り組めるよう体制づくりを強化していく。</p>	教職員	100.0							
教職員	100.0										
<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上</p>	<p>①各自が勤務時間を意識し、長時間労働を削減するために、効率的かつ計画的な業務遂行に努める。</p> <p>②学校における働き方改革を推進するため、業務の精選・見直しなどを行う。</p> <p>③教職員相互に業務支援を行い、連携しながら課題解決に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>教職員の肯定割合は 100%で数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今後も働き方改革の意識や職場環境を改善しながら業務の効率化を図っていく。</p>	教職員	100.0							
教職員	100.0										
<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上</p>	<p>①小中合同のあいさつ運動や地域学校園合同での冒険活動教室を通して、小中学生の交流を図る。</p> <p>②6年生を対象とした乗り入れ授業や中学校訪問を行うことで中学校の様子について学ばせるとともに小中学生の交流を図る。</p> <p>③地域学校園での取組を、たよりやHPで保護者に積極的に発信していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>93.1</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>91.2 ↑</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>90.9</td></tr> </table> <p>すべての対象で数値指標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 今後も計画的に地域学校園内での取組を進め、保護者や地域に対してより一層の情報発信に努める。</p>	児童	93.1	教職員	100.0	保護者	91.2 ↑	地域住民	90.9	
児童	93.1										
教職員	100.0										
保護者	91.2 ↑										
地域住民	90.9										

本校の特色・課題等	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上</p>	<p>①授業や行事等の内容を吟味して積極的に出前講座を活用し、教育活動の充実を図る。</p> <p>②PTA、地域協議会、地域学校園などと連携を図りながら、家庭・地域と協働して教育活動の充実を図る方策を工夫し、地域の教育資源を授業や行事等で効果的に取り入れていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>98.8↑</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>97.4↑</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>すべての対象で数値指標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 今後も出前講座等を活用し、教育活動の充実を図るとともに、地域の各種団体や学校支援ボランティアの支援を得た取組を継続し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。</p>	児童	98.8↑	教職員	100.0	保護者	97.4↑	地域住民	100.0
	児童	98.8↑									
	教職員	100.0									
保護者	97.4↑										
地域住民	100.0										
<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上</p>	<p>①普段から校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕に迅速に取り組む。</p> <p>②火災、地震、竜巻、不審者侵入等避難訓練を通して、緊急時における対応を確認するとともに、危機管理マニュアルの見直しと整備を適宜行う。</p> <p>③教職員を対象にした心肺蘇生法講習を実施し、AEDの操作や救命法についての訓練を行うとともに、保護者と地域に向けてAED設置と活用についての通知を配付する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>97.4</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>数値指標は児童・教職員・保護者ともに達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今後も、校舎内の巡視をするともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い、児童に好ましい学習環境の整備に努める。</p> <p>各種避難訓練を通して、緊急時における対応を全教職員で確認するとともに、児童への安全に対する意識の育成を図る。</p> <p>AED 設置と活用について、保護者や地域に周知する。</p>	教職員	100.0	保護者	97.4	地域住民	100.0			
教職員	100.0										
保護者	97.4										
地域住民	100.0										
<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上</p>	<p>①一人一台端末を授業で有効に活用できるように、OJTを通して教師間で情報を共有するなどして教材研究に取り組む。</p> <p>②校務支援システム、デジタル連絡ツールなどの使い方を把握し、日頃から活用できるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> </table> <p>教職員の肯定割合は 100%で数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ICT 機器を有効に活用した授業実践に向けて、引き続き OJT 等を通して教職員のスキルアップと教材情報の共有を図る。また、校務支援システム等の活用により業務の効率化を進め、質の高い授業準備や児童と向き合う時間を確保する。</p>	教職員	100.0							
教職員	100.0										
<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上</p>	<p>①日常的なあいさつや（廊下での）会釈など、あいさつの方法について随時指導しながら、模範的な児童を称賛し、意識化を図る。</p> <p>②地域学校園の「あいさつ運動」を継続するとともに、地域協議会の「あいさつ標語」も活用しながら、あいさつを進んで自然にできるようにしていく。</p> <p>③「あいさつ強化週間」では、学年だより等を通して、家庭への協力も呼びかけ、家庭と連携しながら挨拶の習慣化に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>96.3</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0↑</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>92.7</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0↑</td></tr> </table> <p>すべての対象で数値指標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 家庭と連携し、日常的なあいさつや会釈など、基本的なコミュニケーションの大切さを随時指導していく。</p>	児童	96.3	教職員	100.0↑	保護者	92.7	地域住民	100.0↑	
児童	96.3										
教職員	100.0↑										
保護者	92.7										
地域住民	100.0↑										

<p>B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上</p>	<p>①「上西小『5つのあたり前』」や、月末に行う児童の振り返りを基に、生活目標を設定し、児童の規範意識を高め、安全で安心な学校生活の実現を目指す。</p> <p>②上西スマイル賞表彰や、きまりやマナーを守っている児童を称賛する場を設け、実践意欲を喚起する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 145 1501 277"> <tbody> <tr><td>児童</td><td>96.3</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>95.1</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table> <p>すべての対象で数値指標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 日常生活指導を充実させ、全職員が一体となって組織的かつ継続的に児童指導にあたり、児童の規範意識を高めていく。</p>	児童	96.3	教職員	100.0	保護者	95.1	地域住民	100.0
児童	96.3									
教職員	100.0									
保護者	95.1									
地域住民	100.0									
<p>B 3 児童は、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などの地域行事に参加している。</p> <p>【数値目標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①<u>まちづくり協議会等と連携を図り、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などについて紹介し、積極的に参加できるようにする。</u></p> <p>②<u>社会科や生活科、家庭科、総合的な学習の時間等の授業において、上河内地区の特産物を調べたり他の地域と比較したりするなどの学習を通して、上河内地区のよさに気付くことができるようにする。</u></p> <p>③<u>上河内地区の地域行事についてさくら連絡網やホームページを活用して積極的に情報発信を行う。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 607 1501 739"> <tbody> <tr><td>児童</td><td>83.8</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>81.8↓</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>90.9</td></tr> </tbody> </table> <p>数値指標は教職員の肯定割合は 100%だったが、児童・保護者は達成しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 他団体とも連携しながら上河内地区の行事や催事、作品募集について紹介し参加を促していく。 社会科や生活科、家庭科、総合的な学習の時間を通して児童が上河内地区の行事に関心をもてるよう、計画的に活動内容を工夫する。</p>	児童	83.8	教職員	100.0	保護者	81.8↓	地域住民	90.9
児童	83.8									
教職員	100.0									
保護者	81.8↓									
地域住民	90.9									
<p>B 4 児童は、縦割り班の活動などで他の学年の児童と協力して活動している。</p> <p>【数値目標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上</p>	<p>①児童会活動や清掃活動等で縦割り班活動の充実を図る。</p> <p>②羽黒山遠足や「なかよしタイム」の実施等、児童が主体的に活動する場を意図的に設け、異学年交流がさらに深まるような活動や内容を工夫する。</p> <p>③授業において、異学年交流の機会を積極的に設ける。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1134 1182 1501 1314"> <tbody> <tr><td>児童</td><td>95.0</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>100.0</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table> <p>すべての対象で数値指標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 縦割り班活動だけでなく、授業や様々な場面においても、異学年交流の機会を積極的に設ける。</p>	児童	95.0	教職員	100.0	保護者	100.0	地域住民	100.0
児童	95.0									
教職員	100.0									
保護者	100.0									
地域住民	100.0									

〔総合的な評価〕

数値指標を「肯定的回答 80%以上（13項目）」、「肯定的回答 85%以上（9項目）」、「肯定的回答 90%以上（2項目）」に設定したが、達成率は95.1%（61対象項目中58項目）であった。

宇都宮市の全小学校（69校）の全市共通肯定的回答と比較すると、93.4%の項目（全項目63のうち59）で宇都宮市全小学校の平均を上回っている。中でも、A13「学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」（100%で+10.5）やA14「教職員は分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている」（97.4%で+10.3）の項目では、保護者の肯定的回答割合が宇都宮市全小学校（69校）の平均を大きく上回った。

本校の令和7年度と令和6年度の肯定的回答割合を比較すると、86%の項目（71項目のうち61項目）で令和6年度の肯定的回答割合を上回っているか同等という結果である。

中でも、A2「児童は思いやりの心をもっている」の肯定的回答割合は、児童97.5%、保護者95.0%であり、昨年度よりも、児童が12.0ポイント、保護者が9.3ポイント上回り、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」、A13「学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」の2項目においては、保護者の肯定的回答割合が令和6年度よりも大きく上回った（A11…+22.9ポイント）、（A13…+9.1ポイント）。これらは、本校が継続して取り組んできた「児童一人一人のよさを認め、励ます教育」に関する様々な取組が実を結んでいると考えられる。また、「自信や自己有用感を育む指導の充実」、「基本的な生活習慣を身に付け、思いやりをもちルールを守って行動する児童の育成」が保護者にも理解されていることが分かる。今後も、学校生活アンケートや年間2回の教育相談週間を実施し全校体制でいじめ根絶に取り組むとともに、学びに向かう集団の育成に取り組む、互いに認め合う安心感のある学級を目指していく。

さらに、A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている」では、保護者の肯定的回答割合が令和6年度より9.9ポイント上回った。今後も本校で継続して取り組んでいる「主体的・対話的で深い学びに向けて児童の自己調整力を高めるための授業改善」を基盤とした学習指導を全教職員で行っていく。

A6「児童は英語を使ってコミュニケーションしている」の児童の肯定的回答割合は73.8%であり、昨年度より10.4ポイント下回った。児童が英語への関心を高められるよう、ALTとの活動を一層充実させ、会話の基本形や教材教具の作成などを通し、児童が自信をもって英語を使ったコミュニケーションが取れるよう環境づくりを行っていく。

7 学校関係者評価

・昨年度よりも保護者の肯定的回答が上がっているのは、学校・教員の働きかけが成果となって表れているのだと思う。昨年度は、いじめに関する項目で保護者の肯定的回答が低かったが、今年度は大きく上がった。取組に一定の効果があったということだと感じる。

・授業参観で外国語の授業を参観したが、しっかり取り組んでいることが伝わった。今後、子供たちが英語を話す機会を増やすなどしていけば、徐々に数値は上がっていくのではないかな。

・地域行事への参加は中学校で増えてきている。今後は、まちづくり協議会とも連携して、小学生も参加できる取組を考えていきたい。

・地域の伝統行事である関白獅子舞を小学生にももっと知ってもらいたい。お祭りを見に来たり、学校で体験活動などができたりするようになるとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・学校だよりや学年だより、学校HP等を適宜有効に活用し、引き続き情報発信に努めていく。
- ・家庭・地域と連携し、家庭や地域から信頼される「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- ・地域の教育資源を生かした活動を通して、地域への愛着を育むことができるようにしていく。
- ・縦割り班活動で他の学年の児童と協力して活動するなど、少人数を生かした教育活動を通して、望ましい人間関係を醸成していく。